

# 静岡県で活躍する医師



静岡市立清水病院

院長／小児科

上牧 務 医師

## 医師をこころざしたきっかけを教えてください。

**上牧医師** 幼いころの私は乗り物が好きで特に鉄道に興味を持っていました。東海道新幹線が開業した時期でもあり新幹線の運転手になりたいと思っていたこともありました。旅行を企画するような仕事にも興味を持った時期もありました。その一方で自分の中に会社員や公務員という仕事のイメージはわきませんでした。それは身近な人生の手本の父親の存在が大きかったと思います。開業医であった父親は、自宅に隣接する診療所で子供たちの診療に明け暮れる毎日でした。医師という職業が身近にあったことは、私が医師をこころざすきっかけとしてきわめて自然でした。小児科医になって30年以上経ちますがこの選択は間違っていなかったと思います。今でも鉄道旅が好きなので機会があれば日本一周の鉄道旅の同行医師をやってみたいと思っています。

## 院長に就任してからの現況を教えてください。

**上牧医師** 就任直後は病院経営に関してほとんど知識がなく会話についていくことができませんでした。これではいけないと思い多くの情報をインプットし続けました。今では同じ土俵で会話ができるようになった気がします。このまま立ち止まることなく勉強を続けていきます。  
もう一つ心掛けていることがあります。全医師と個別面談です。  
直接話を聞くことで新しい気づきが得られています。コロナ感染症対策で頑張ってくれている医師、看護師、病院スタッフに感謝の言葉をかけることも忘れてはいけないと思っています。

## 現在の診療科を専攻したきっかけと魅力を教えてください。

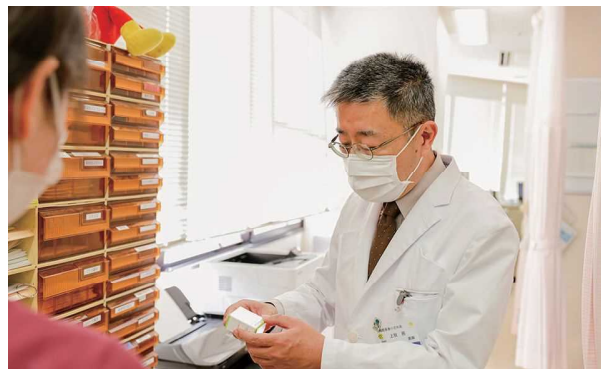
**上牧医師** 学生実習で手術の見学をしていたときに気分が悪くなり、その時点で外科系の医師になることはあきらめました。小児科医は忙しくて人気がないと言われた時代でしたので、それなら私になろうと単純に考えました。研修医時代私は「使いべりしない男」と言われていました。小児科の魅力は、子どもの笑顔にいやされることが仕事になるということかもしれません。家族と一緒に子どもの成長を見守ることができることも魅力にあげられます。

—— 現在のご勤務先での現況について（印象や取組まれていること等）教えてください。

**上牧医師** 大学医局から医師が派遣されてきております。若い先生は情報収集能力が高くデジタルデバイスも上手に使いこなしています。オンオフのメリハリをしっかりとつけている先生が多いと感じます。小児科医としてさまざまな経験が積めるように環境を整えています。またインシデントが多い予防接種外来の対策として予防接種誤接種防止システムを構築し、若い先生のインシデントを減らすことができています。

—— 若手医師との関わりや指導について教えてください。

**上牧医師** 小児科医としての処置のピークは40代だと思いますので、技術的な指導は難しくなりました。そのかわりに教科書には書いていない外来での立ち居振る舞い、母親との会話、クレーム対応、スタッフとのコミュニケーションなど経験が必要な技術はしっかり指導しています。「俺のやり方をみている」というスタンスより診察している若手医師の後ろにいてそれとなくアドバイスを与えてあげるのが自分に合っています。



—— 医師を目指す方や若手医師にメッセージをお願いします。

**上牧医師** 働き方改革が医療分野にも入ってきたことで労働環境は大きく改善しつつあります。遅くまで働くのが美德と言われた時代は終わり、いかに効率的に仕事をするかが課題になりました。一方で患者さんの状況により時間通りに帰れないというジレンマも抱えています。メリハリをつけて働くことがこれからの医師には必要となってくるのではないのでしょうか。



### プロフィール

## 上牧 務 医師

#### 趣味

- ・ショパンを聴くこと
- ・ランニング&ウォーキング
- ・行きあたりばったりの鉄道旅

- 1988年3月 秋田大学医学部卒業
- 1988年4月 慶應義塾大学小児科学教室入局
- 1990年7月 富士重工総合太田病院小児科
- 1992年9月 伊勢慶應病院小児科
- 1993年7月 慶應義塾大学小児科
- 1996年8月 清水市立病院小児科医長
- 2002年4月 清水市立病院小児科科長
- 2003年4月 静岡市立清水病院小児科科長
- 2015年4月 静岡市立清水病院診療部長
- 2016年4月 静岡市立清水病院副院長
- 2022年4月 静岡市立清水病院病院長